

職員による自己評価

A環境面

建物の階段には手すりがある。玄関には小さな段差がある。作り付けのドアが重い。

B児童への支援内容

毎月研修が行われている。
その児童にあったプログラムを作成している。
職員が情報を共有し、活動内容を立案している
活動後は、情報などを記録している。

C関係機関との連携

送迎時に親御様や先生と様子を伺い情報を共有している。場合により区役所などの関係機関が集まり情報の共有を図っている。

D保護者への説明責任・信頼関係

半月に一度は面談、モニタリングを行い支援計画が作成されている。

E非常対応

毎月避難訓練を行っている。
AED や心肺蘇生法などの講習を行っている。

保護者による評価

A環境面

バリアフリーの状況を教えて欲しい。

B児童への支援内容

手作り工作や休日などのイベントに工夫がされている。
ペースに合わせて無理せず暖かく見守ってくれている。
高齢者施設への訪問など貴重な体験をさせてもらっている。

C事業所からの情報発信

他クラブとの交流があるのか教えて欲しい。

D非常対応

避難訓練など行われており、実際に起こった時に避難していた。
非常時の対応など施設から説明が有ったら良いと思う。

事業所内での分析

【共通点】

児童に合わせた活動を行っている。
避難訓練を毎月行っている。

【相違点】

保護者様より、バリアフリーの状況が分からない。
保護者様より、他クラブとの関わりがあるのか知りたい。

分析・検討してみて…

事業所の強み

職員同士の情報共有がしっかり行われている。
児童に合わせたプログラムを行っている。

事業所の改善点

活動や取り組みのアピールが足りない、活動内容や取り組みを知らない親御様がいる。

事業所の改善への取り組み

色々な媒体を使い情報発信を行う。面談時にも情報の発信を行う。

～自己評価を行っての事業所としての感想など～

今まで、送迎時やその日の活動報告。月に一度発行しているもみキッズ通信やホームページに活動内容を掲載したり話したりしているが浸透しているとは言い難い状況である。今後も情報発信や参観日を増やす（令和5年度は1回行った）などの対応が必要と思われる。